

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 について

(1) 株価の分析

・ 18/3期以降TOPIXを大幅にアンダーパフォーム

【要因】

17年6月のTCFD提言以降、CO2多排出セクターに対する株式市場からの厳しい評価
利益水準の低下（セメント需要の減少、エネルギー価格、為替等）

過去10年間の株価の推移（14年4月1日 = 100とした日足の指数）



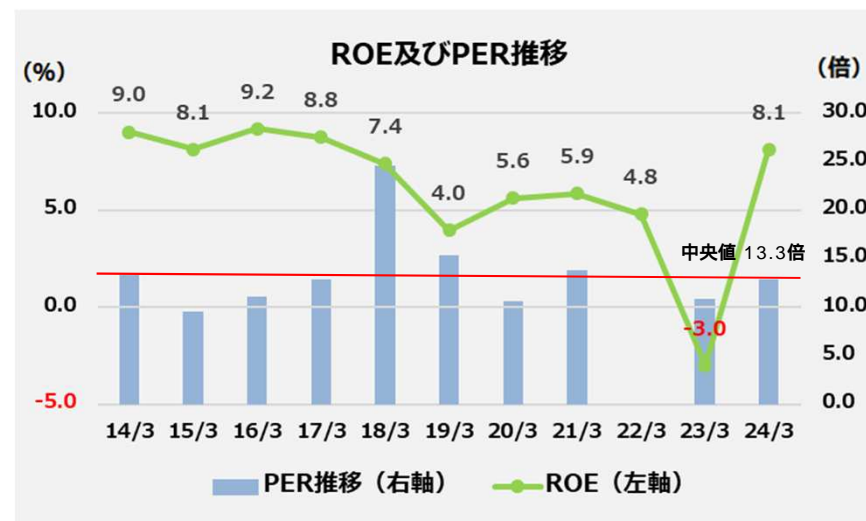
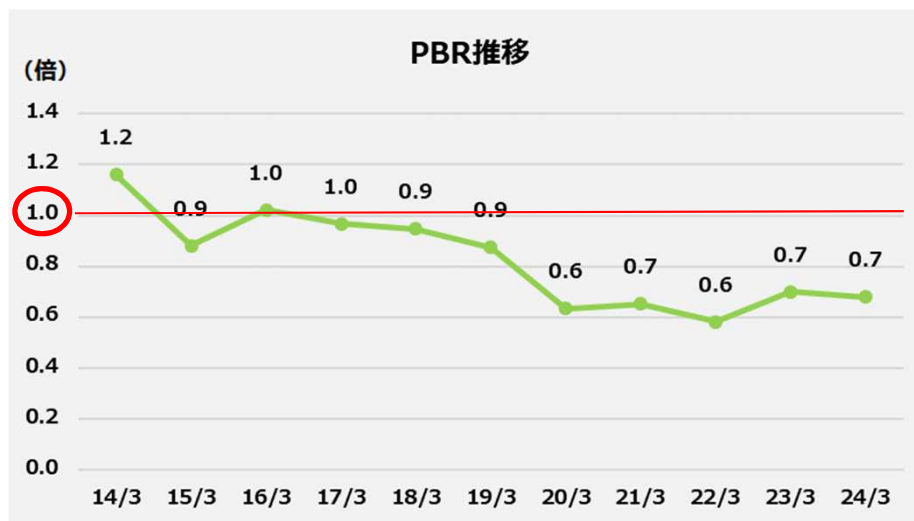
(2)PBRの分析

・過去10年でPBR1倍を超える時期もあったが、近年は0.6～0.7倍程度に留まる

【過去10年のROEとPERの水準（ $PBR = ROE \times PER$ ）】

ROE：18年3月以降は現中期経営計画の目標である8%を常に下回る水準

PER：中央値は13.3倍（益利回り7.5%）、最小値は9.5倍（同10.5%）

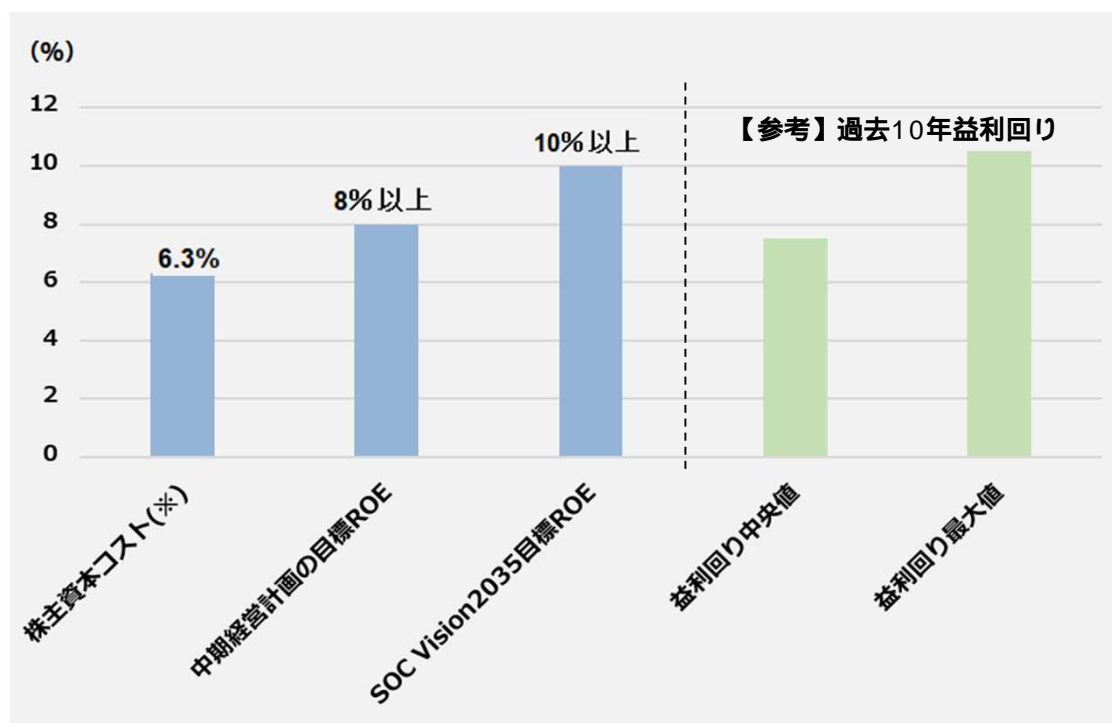


PERは「当期期末時価総額÷翌期当期純利益」で算出。
 なお、22/3期は23/3期の当期純利益がマイナスだった為、非表示。

(3) 資本コストと目標リターン

【目標ROEの考え方】

目標ROEはCAPM、過去の益利回り、エクイティスプレッド等を総合的に勘案して決定
足元の経営環境の激変に対応し、現中計最終年度（26年3月期）にROE8%以上
SOC Vision2035の最終年度（36年3月期）より可能な限り前倒しでROE10%以上達成を
目指す



() 株主資本コスト

2023年3月末

【リスクフリーレート】
10年国債利回り (0.3%)

+

【ベータ()】
当社固有のリスク (0.8)

×

【リスクプレミアム】
株式投資に期待する
超過収益率 (7.5%)

||

【株主資本コスト】

6.3%

CAPMより当社試算

(直近参考値)2024年3月末
5.2%

(4) 目標リターン達成に向けた考え

目標リターンの達成

(1) リターンの最大化

- ・ 中期経営計画、SOC Vision2035の施策を確実に実行

【2025年度目標値】

売上高	2,650億円
営業利益	214億円
ROE	8.0%以上
ROIC	5.0%以上

【2035年度目標値】

売上高	4,000億円
営業利益	400億円以上
ROE	10%以上
ROIC	6.5%以上

(2) BSマネジメント

- ・ ROIC経営の導入
- ・ 財務安定性の維持（D/Eレシオは足許の水準を目安）
- ・ 政策保有株の縮減（27年3月期で純資産比10%未満）
- ・ 3ヶ年平均総還元性向50%以上

(3) 未来に選ばれる会社へガバナンスの充実

- ・ 指名報酬委員会の活用
- ・ 取締役会実効性評価の充実